

| 科目名 | | 木造計画演習 | | | |
|---|---|--------|--|------|------|
| 担当教員 | 渡部 和久 | | 実務授業の有無 | ○ | |
| 対象学科 | 建築大工科 | 対象学年 | 2 | 開講時期 | 前期 |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数 | | 時間数 | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | <p>建築大工着の検定取得の対策として。展開図の概要、作図方法を学ぶことで図面の必要性を理解し、合格基準に準ずるスキルを習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 説明→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 展開図の作図方法の基本を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した展開図の描き方を理解する。 4. 検定対策として、時間内に作成できるよう、繰り返し修練する | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | 展開図の基本を習得し、それを理解し原寸図を書けるようになり、建築大工技能検定2級取得を目指します。 | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | ①配布資料 | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | | 学習方法・準備学習・備考 | | |
| 1 | 展開図の概要説明 ①展開図の理解 | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、展開図の概要を理解させる。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | |
| 2 | 展開図の製図① ①蟻継ぎ、鎌継ぎ、金輪継ぎ、追掛け大柱継ぎの展開図作図。 | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。課題提出後フィードバック ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | |
| 3 | 展開図の製図② ①建築大工技能検定2級の課題の展開図を作成 (1/2スケール) | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。課題提出後フィードバック ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | |
| 4 | 原寸図の作成 建築大工技能検定2級の課題の展開図を作成 (1/1 原寸図) | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。課題提出後フィードバック ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | |
| 5 | 技能検定対策 繰り返し、繰り返し原寸図を書く。目標時間45分 | | 技能検定合格のため、繰り返し、繰り返し原寸図を書く。目標時間45分 | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | 履修上の注意 | | |
| <p>提出課題で評価する。 課題①30%、課題②30%、原寸図40%</p> <p>成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p> | | | <p>建築大工技能検定2級取得の対策として、展開図を書ける様に基礎知識をしっかりと理解させる。技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことでつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。</p> | | |
| 実務経験教員の経歴 | | | 1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。 | | |

②

| 科目名 | | 木造計画演習 | | | | | | |
|--|---|---|------|---------|--|------|--|------|
| 担当教員 | | 渡部 和久 | | 実務授業の有無 | | ○ | | |
| 対象学科 | | 建築大工科 | 対象学年 | | 2 | 開講時期 | | 後期 |
| 必修・選択 | | 必修 | | 単位数 | | 時間数 | | 48時間 |
| 授業概要、目的、授業の進め方 | | 大工技能検定2級の対策授業。技能検定の課題を繰り返し行い演習を通して学ぶ。 1. 検定課題である原寸の展開図を繰り返し作成する。 2. 演習課題と同時に筆記試験の対策も行い、テスト→解答を繰り返す。 3. 説明→演習（小テスト）→解答→解説を繰り返すことで合格基準を目指す。 4. 大工技能検定の重要項目のため、1年次からの総復習を絡め対策授業を行う | | | | | | |
| 学習目標 (到達目標) | | 大工技能検定2級に必要な展開図（原寸図）を書き込んでいく。目標時間（45分）で書き上げられるように、繰り返し繰り返し練習する。また、早く書くだけでなく、正確さも高めていく。 | | | | | | |
| テキスト・教材・参考図書・その他資料 | | ①配布資料 | | | | | | |
| NO. | 授業項目、内容 | | | | 学習方法・準備学習・備考 | | | |
| 1 | 展開図（原寸図）の書き込み ①大工技能検定2級の課題の展開図作成。（原寸図） | | | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、展開図の概要を理解させる。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | | |
| 2 | 大工技能検定2級の課題の制作 ①大工技能検定2級の課題作成。 | | | | 方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、課題の概要を理解させる。 ①の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：プリントに示されている練習課題の予習と練習 | | | |
| 3 | 技能検定筆記試験対策 ①技能検定2級及び3級の筆記試験対策 | | | | 方法：大工技能検定過去問題を使って説明、解説の座学 達成目標：合格基準点に達している。 準備学習：プリント等の予習・復習 | | | |
| 評価方法・成績評価基準 | | | | | 履修上の注意 | | | |
| 課題提出、及び各テストで評価する。 課題提出、評価60%、取組姿勢30%、出席10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 | | | | | 建築大工技能検定2級取得の対策として、展開図を書ける様に基礎知識をしっかり理解させる。技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことでつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。 | | | |
| 実務経験教員の経歴 | | 1級建築士として、建築現場監督業務に約10年携わる。 | | | | | | |